

北海之光

11月号 北海道教区報

ハレルヤ 新しい歌を
主に向かって歌え
詩編 149 編 1 節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 笹森田鶴

『主の来臨を待ち望み、今日を生きる』

札幌キリスト教会牧師
有珠聖公会管理牧師・室蘭聖マタイ教会協働司祭

司祭 ペテロ 大町 信也

今年、一月二七日から

改めて心を留めましょう。

降臨節(アドベント)に入ります。教会の暦では、新年の始まりです。降臨節は、クリスマスを迎えるまでの準備の時ですが、クリスマスにイエス様のご降誕を心からお迎えし、イエス様と共に一年を生活するための大切な準備の期間と言えるでしょう。降臨節は、「新たに迎える年こそ更にイエス様としつかりと手を結んで生活しよう」と霊的な備えをする時です。「新しい年は、更にイエス様の導きと助けを必要とする年なのだ」と、謙虚に覚悟する時です。

そして、愛する家族・友人

再確認するためです。

そして隣人の中にも、イエス・キリストの誕生があるようにと、心を込めて願う時でもあります。その人の中にイエス様が共に生き、歩んでくださる事が、私にとってと同様に、意味深い事なのだという事に

改めて心を留めましょう。さて、準備の時としてのアドベントの基本的態度は、クリスマス待つという事を通して、救い主の来臨をお迎えするために「待つ」という姿勢を持つという事です。そこには、二重の「待つ」の意味があります。ですから、わたし達はこの降臨節の時期に「迎えまつらん」「目覚めて待ちます」「お出でください」と繰り返し歌います。それは、いにしえの人々が救い主メシアの誕生を渴望したように、私たちが主の再臨を心から「待つ者」として自分を再確認するためです。

一九世紀のドイツにJ・C・ブルームハルトという牧師(一八〇五〜一八八〇年)

ていたそうです。「あの馬車は何のためですか」と尋ねられると、彼は「主イエス・キリストが再びこの世においてお迎えするためです」と答えたそうです。私たちはこのエピソードを聞いて驚き怪しむと共に、馬鹿げた事のように思ってしまうのではないのでしょうか。しかし、彼は、「世の終わり」という人知で予想し得ない時に備えて、大真面目に一台の馬車を用意しました。庭に馬車を置く事によって、自らの魂を、また人々の思いを、いつも忘れる事なく「世の終わり」に向けさせようとしたのです。そのことによって、彼はいつも目覚めて生きようとしたと言えるでしょう。一見愚かに見えますが、ブルームハルトは、神秘家・夢想家だったのでしょいか？

否、むしろ彼は誰よりも真

剣にこの世の出来事と人々にコミットした牧師でもありません。彼は、人々の日常の悩み・苦しみに真剣に全力で耳を傾けると共に、人々の苦悩と必要に応えようと働きました。

「待ちつつ、急ぎつつ」これは、彼の信仰者としての姿勢を良く表す言葉だと言われています。一見矛盾するこの態度が果たして可能なのでしょうか。しかし、この言葉は、主の再臨、成就の時を信頼して待つ中で、日常をおろそかにしないという生き方を現しているのではないのでしょうか。どのような時代の中にあっても、日々一つ一つの小さな現実を目を注ぎつつ、神を仰ぎ見る生き方です。心を込めた小さな愛の業が、神の国という大きな希望と結び合っている事を証しする生き方です。

イエス様は言われました。

「何よりもまず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから明日のことまで思い悩むな。明日は明日自らが思い悩む。その日の苦労はその日だけで十分である。」(マタイ六・三三〜三四) 神の国の実現・主の来臨を待ち望む私たちは、今日という日を丁寧生き神様に捧げます。



—心の窓をひらく—

福音と私(二六四)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか

札幌キリスト教会信徒

ヨセフ 木末 康



「私の大切な聖句」

…神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えてくださいます。(二コリ・一〇章一三節)

足跡は消えても

福岡市の西方、生ノ松原という松林に、聖バルナバ教会とハンセン病患者の療養所があった。ここは患者の療養に最も適した静かな場所、黙想と祈りの場所であった。その創立は一九三〇年の春、福岡神学校の木末神学生(後の北海道教区の牧師)がみすぼらしい小屋に住まいするハンセン病患者を発見し、休日毎に慰問していた。当時の九州教区監督(今の主教で校長)は木末神学生の報告によって患者の療養所の建設を決意され英米のミッションに働きかけ

記載されている。

このような史実から、丁度百年前の父の受洗が私の「キリスト者として生きる」原点なのです。

神様の慈しみと愛に育まれた今の私にとってこの節目は、父の没後五五年、札幌キリスト教会の創立一三〇年の年でもあります。このような折に、大町先生からの連絡で、「福音と私」の執筆依頼、なぜか二つ返事でお受けいたしました。

牧師家族の生活は夕張の五年と帯広聖公会での三一年、計三六年間、一九六七年父の不慮の交通事故による終焉を機にその歩みは終わりました。

私が三男二女の次男として生まれ幼児洗礼を受けたのは戦時中(第二次世界大戦)の一九四三年のことでした。

私が双葉幼稚園(旧聖公会付属・現国の重要文化財)、小学校低学年の頃の帯広聖公会は、多くの信徒が礼拝を守り、青年会のメンバーが、日曜学校の教師を務め、諸行事で教会は賑やかな様子でした。当時の日曜学校の同期生には現在深川聖三一教会にて司牧される司祭アンデレ甲斐

博邦先生がおられました。

幼児洗礼を受けた私は一二歳の時、何ら抵抗もなしに、主教上田一郎先生より堅信式受領いたしました。この時初めて私の教名がない理由が分かりました。それはなぜか戦時中の為大事な教籍簿への記載がなく、この時教名ヨセフが父母にて命名されました。

中学、高校時代は、市街地から帯広西郊外に教会、幼稚園が移転する時期でした。牧師館が狭く、幼稚園の屋根裏部屋が弟と私の棲み処で、礼拝には惰性で出席したことも多々ありました。

こんな私にとって大学時代の学生寮(YWCA山手学舎)での生活は、キリスト者としての生き方を考える良い機会となりました。日々、四年間の生活は朝六時半、出席が義務付けられた早朝礼拝に始まり、月一度の聖書研究会もありました。この寮の構成メンバーは学校も教派もバラバラで、求道者を含む二〇数名が寝食を共にする寮でした。

ここでは、福音派の牧師になった立教のキリスト教学科に通う先輩をはじめ他教派の学者肌の信者、自分とは違った信仰の持ち主を目の当たり



司祭パウロ木末登初任地 <旧夕張聖公会 2015年撮影>

にし、感動したり、自分の信仰を真剣に考える、貴重な経験でした。聖公会の信徒であることのすばらしさを確信する機会が得られました。

父が交通事故で殉職した年は、私が大学を卒業し、就職したその年でした。いよいよ父の学生時代、初めて教会を訪れた時そして求道生活、牧師になるきっかけ等々、唯一父が飲めたワインを手に語り合えるその日を、楽しみにしておりました。

私の教会生活のその後は、流通業界に働き、店舗設計コンサル等を生業とし七三歳迄現役でした。主日にも仕事があり三〇代の後半までは、イースターとクリスマスには何としても礼拝に出席することが精いっぱいでした。

私共家族は一九八二年の

常置委員会報告 第二回 一〇月一八日

協議事項

- 一、聖職按手式実施について
の主教諮問に関する件
- ・三浦千晴聖職候補生の按手式を、十一月二三日に予定す



主教室から

人間が生きていく上で欠かせないのが食事です。北海道では、自分の生活圏と食べ物との距離が非常に近く感じられます。自分の口に入るものが同じ土地で作られ、収穫・捕獲され、さらには知っている方やそのご家族の手による物であることは、大変貴重なことであり、有り難いことです。大地や海や川からの恵みをダイレクトに受け、そこで働く方々の知恵と労働への感謝と同時に、自然の力の偉大さや厳しさへの畏敬の思いを抱き、また自然をお

る事を了承した。

二、ニセコの教区所有地売却の代金の帰属に関する件

・管理を委託してきた聖マーガレット教会と、教区の案分について協議した。

三、教区会についての諸確認に関する件

・一日目の協議会のプログラムについて協議した。

四、常置委員会提出議案の確定に関する件

下記の議案の提出を確定した。
・「日本聖公会北海道教区常置委員選挙実施規定を作成改正の件」

造りになり、雨を降らせ、陽の光を注いでくださる神様のみ業を生き生きと感じ

られるとは、なんと豊かなことでしょうか。

さらに一〇月から一月にかけて北海道教区の各教会でおさげされる「収穫感謝」に毎回目を見張り、驚き、感激しています。聖卓の足元に溢れるような収穫物がささげられ、自然からのありとあらゆる実りで礼拝堂が美しく彩られます。毎年欠かさず、労働と実りの大いなる喜びと感謝を主におさげし、また、今食事が十分に分かち合われていない現実を思いを馳せて祈り、行動する営みが

実に生活に根ざしており、大切にされていることが伝わってきます。

一方、それまでの自分の信仰生活で次第にこの習慣が薄れていたことに気付かれます。人間は自然の中に他の動植物とともに生かされている存在に過ぎないこと、食べ物は時間を掛けて多くの方々の手を通して目の前によく届けられること、それらは神様からの恵みに他ならぬこと、そのような当然で大切なことを、またひとつ北海道で教えてもらっています。そして何より、北海道の食べ物は実に美味しいのです。

義 マリア・グレス 笹森 田鶴

・「東北教区・北海道教区宣教協働タスクフォース設置の件」
・「基本財産の取得・処分に関する件」

五、奏楽クリニックに対する補助に関する件

・同プログラムに関して補助する事とした。

六、植松主教よりの献金の取り扱いに関する件

・植松主教よりお受けした献金を宣教献金、教役者研修資金に繰り入れる事とした。

* * *

堅信式受領 おめでとう

岩見沢聖十字教会

ヨセフ 石川 進一

マリア 石川美千枝

(二〇月一六日)



二頁より続く

春、耐えがたい試練を経験いたしました。それは当時小学六年生であった長男の急死です。重度の自閉症で、養護学級に通っておりまして。言葉はありませんでしたが、私たち家族に強く生きることを教えてくれた息子でした。

私共夫婦の結婚を楽しみにしていた父の予期せぬ殉職、長男と私共家族に与えられた試練、こんなこと『神様』するの』と悩みました。でもこれを機に神様が「悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる」(マタイ五・四)と、教会の戸を開き招き入れてくれたと信じたのでした。

このような試練の時私を支えてくれたのは、教会に繋がる、主と共に在る諸先輩の「祈り」でした。

昨今、身の回りに多くの苦難を抱える日々ですが、様々な試練に直面した時、父が多くの兄弟姉妹のために引用し、共に祈ったのが『私の大切な聖句』なのです。

乏しい私ですが、感謝と、祈りをもって「主に忠実な神の家族」(新教区主教メッセーじより)の一員でありたいと願っております。

シンプルスコアのご案内

函館聖ヨハネ教会・教区礼拝委員
セシリア 丸山 悦子

礼拝の中で音楽を用いて賛美することが出来るのは、私たちの喜びです。聖歌の伴奏があることによって、賛美の声は支えられ、礼拝をより生き生きとお捧げすることができます。北海道教区礼拝委員会では、聖歌の和音(4つの音)を一度に弾くのは難しいという方々の助けになるようにとの目的で、日本聖公会聖歌集のなかから、#やbの少ないものを選び、右手、左手各1音で(ソプラノとベースパートのみ)弾くことができるような楽譜(シンプルスコア)を2015年より作成しています。前奏箇所や指番号も記しています。指番号は歌詞が活きるように付けられています。その曲数は現在100曲近くになりました。礼拝で奏楽のご奉仕をされておられる方はもちろんのこと、ご自宅で聖歌を弾きたいという方にもご利用いただくことができます。小さい方から、シニアの方まで、奏楽をもって神様と人々に仕えたいというお気持ちのある方々の助けになれば幸いです。

作成済み聖歌番号、シンプルスコア入手方法、その他ご質問は、「奏楽者の風箱」(年に2~3回発行のニュースレター。各教会に配布しています)の情報箱までメールでご連絡ください。(少額の献金を維持費としてお願いしています。)

メールアドレス e-k-maru@msb.ncv.ne.jp

168

<聖歌 168 番>

♪練習のヒント♪

- ・前奏について：1段目と4段目をつなげて弾きましょう。
- ・指を置き換える箇所(1-2)が各段の最後の小節にあります。二分音符ですから、落ち着いて置き換えてください。
- ・3段目は少し複雑です。右手の2小節目の最後の音「ソ」から3小節目の「ラ」の指使いは、親指に小指を引きつけるようにすると滑らかに弾けます。
- ・3段目の左手は、音程が上下に動くので手を大きく広げて弾きましょう。
- ・各段の3小節目は拍子が変わり、1小節に4分音符が6つになります。拍子の数え方に注意してください。
- ・221番と同じメロディーです。

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

二月十四日(水)

午前10時30分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司 祭 岡村 国夫

一九五四年二月一日

司 祭 N・D・スミス

一九八四年二月四日

司 祭 ウォルター・デニング

一九一三年二月五日

司 祭 W・D・エディ

一九八九年二月五日

司 祭 木村 光二

一九七九年二月九日

伝道師 北野 幸太郎

一九五七年二月一日

伝道師 津田 四郎平

一九一三年二月一日

司 祭 大井 浅吉

一九二五年二月二〇日

執 事 前川 修

一九四八年二月二三日

伝道師 永久保 秀二郎

一九二四年二月二四日

司 祭 荒木 蕃三

一九四八年二月二四日

司 祭 大矢 敬香

一九四二年二月三〇日

二〇二二年度日本聖公会北海道教区施設職員研修会旭川大会 主題 「あーおもしろかった!」の子どもの声を!

岩見沢聖十字幼稚園 園長 ユニケ 菊地 和子

九月二一日(水)〜二二日(木)、旭川聖マルコ教会および旭川頌栄保育園を会場に、久しぶりの施設職員研修会が三年ぶりに開催されました。ステンドグラスが美しい明るい礼拝堂で「お久しぶりです!」「お元気でしたか?」と和やかな談笑が交わされ、人と人が直に会うということは効率以上の何かを生み出す力になっていると感じました。

一日目の講演は、福音館書店の編集・作家活動を経て現在麗和幼稚園の園長をされている斎藤惇夫氏による「子ども、本、祈り」と題したお話でした。特に印象に残ったのは、「絵本の読み聞かせを通して、子どもは行つて帰ってくる」ということです。子どもの一番の特徴はお話の主人公になり切ってお話の中に入っている事。絵本の中には、心を動かす展開が待っています。美しいお城、気味の悪い森、勇敢な仲間：壮大な旅をして、

無事に戻ってくる。その間、信頼するお父さんやお母さんの腕の中にいたり、大好きな先生が傍にいる事で、安心して冒険できる。だから、文字が読めるようになったから「一人で読みなさい」や、忙しいからYouTubeで見せればいい、じゃなく、大人と一緒にその旅を見守っていることが大事なんだという事でした。もうひとつ心に残ったのは、高学年になっていた息子さんが入院した時のお話です。病室で自然に関する絵本を読み聞かせたところ無言で聴いていた息子さんが突然「お父さん、ぼくを森へ連れて行って!」と切実に言ったそうです。その頃、息子さんの小学校ではランドを改造して土が全くない人工的な環境になり、土や草や虫といった子どもにとって大事なものが目の前から消えてしまった時期だったのです。感受性の強い子どもは混乱し、弱り、自然を渴望したのです。生き

植松 誠主教(長野県岡谷市)
永田 保信(千葉県)

物の体は土と分ける事はできない、子どもにとって土は必要不可欠だと思ひ知らされるお話でした。今は亡き息子さんを思い出す辛さよりも、これからの子どもたちのために伝えなければという先生のお気持ちを拝察し、強く心に留めました。

二日目は、給食について語り合う分科会と、絵本の楽しみを語り合う分科会でした。給食の分科会では、調理員が急に休んだ時、各園でどのように対応しているか?アレルギーがある園児が増えていくがどのように対応しているか?など話し合われ、自園給食の大変さなどを聞く事ができ有意義でした。この研修会を準備して下さった旭川頌栄保育園の皆様、おいしいシフォンケーキでもてなしてくださった聖マルコ教会の皆様、本当にありがとうございました。



北海道外キ連 ワンデー・キャラバン

司祭 ペテロ 大町信也

一〇月七日、北海道外キ連による「ワンデー・キャラバン」が、札幌キリスト教会を会場に開かれました。北海道外キ連の正式名称は「外国人住民基本法の制定を求める北海道キリスト教連絡協議会」ですが、日本に暮らす外国籍住民の人権のために活動するこのエキメニカル(超教派)な働きに、北海道教区は設立当初から参与してきました。

北海道外キ連の活動の特色の一つに、三五年にわたって毎年続けられて来たキャラバンがあります。それは、全道の諸教派・諸教会を訪ね、在日外国人の人権にかかわる課題について共に学び考えるというプログラムです。通常は三日間のプログラムですが、今年にはコロナ禍でもあり、日程を短縮して札幌での「ワンデー・キャラバン」を実施し、リモートで全道各地の皆さんに参加いただきました。プログラムの最初に、笹森主教を指導者にお招きしての聖書研究会が、ハバクク書の

第四章をテキストに行われました。

夜には、「ミャンマー軍事クーデターと在日ミャンマー人の今」と題して、渡邊さゆり牧師(日本バプテテスト同盟駒込平和教会牧師・マイノリティ宣教センター共同主催)による講演会が開かれました。ミャンマーには、人口の約六パーセントにあたる三四〇万人のクリスチャンがおり、その多くが北部山岳地帯に住むチン族・カチン族・カレン族の人たちであること。昨年二月の軍事クーデターに際してクリスト者達が抗議と抵抗の運動を興し、軍事政権から厳しい弾圧の下に置かれ続けていること。日本には、約四万人のミャンマー人の方がおられ、各地でミャンマーの民主化を求めている活動が行われていること、などを知ることができました。

続いて北海道在住のミャンマー人の方からの証言を聴きました。集会後は、毎週金曜日に行われている「ミャンマーを覚える祈り会」にオンラインで参加しました。



▽岩見沢聖十字教会

一〇月は喜びの月。一六日、初の主教巡回礼拝。収穫感謝と石川進一兄、美千枝姉ご夫妻の堅信式も行われました。

笹森田鶴主教様の魂に迫る説教と、所作の美しさに触れる事ができたのは、大きな恵みでした。聖公会の豊かさを改めて感じる瞬間。おめでとうございます。笹森主教様による岩見沢での初の堅信式。お二人の教名は、ヨセフとマリア。

この日、渡部さんご一家が札幌へ転居される挨拶がありました。寂しくなりますね。いつまでもお元気で。

▽旭川聖マルコ教会

一〇月に入り、礼拝の持ち方について数点、従来の方法に戻りました。起立所作の回

復、聖歌は、入堂と退堂時に、最初と最後の節を二節ずつ歌うことになりました。始めは静かな歌声が、段々と大きくなり、礼拝堂全体に響き渡りました。

二三日は、収穫感謝・子ども祝福式でした。祭壇の前にたくさんの収穫物が捧げられ、子ども達には教会からの贈り物が配られました。

保育園では、五日、収穫感謝礼拝が行われ、捧げられた果物を、防火教室でお世話になった消防の人と地区の交番の人にプレゼントしました。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

(伝道所)

釧路のコロナ感染者は減少したり、増加したり何とも悩ましい限りですが、パウロ教会は少しずつ以前の状態に戻りつつあります。

聖霊降臨後第一八主日の礼拝後には吉野司祭作成冊子「教会問答あれこれ」を用いた第二回勉強会が行われ、使徒信経について深く学びました。時間はそう長くはありませんでしたが、普段何気なく

唱えている使徒信経の文言の変化などを知ることが出来て勉強になりました。次回は一月第二週。さらに深く勉強することが楽しみです。

また、翌第一九主日には礼拝後、久しぶりにオリーブ会が開催され、荒井めぐみ委員より感謝箱献金や会費の使い途などの説明があり、和やかに終了。

ただ、哀しい出来事もありました。療養中のローザ三枝智子姉が、一〇月九日、神に召されました。通夜は一〇日に、葬送式は一日に吉野司祭の司式で行われました。

駐車場の擁壁工事は着々。仮駐車場の旧東栄小学校からの道のりにも慣れました。一月中の完成を願って。主に感謝。

▽帯広聖公会

例年より早い初霜、初氷。

一〇月一二日から、北海道教区秋季教役者会が十勝にて行われ、当教会にて礼拝がもたれました。十勝川温泉で日頃のお働きの疲れが癒され、新たな励ましが与えられますよう祈りました。九月に召され

たお二人のご遺骨が教会墓園に納められました。一六日は収穫感謝礼拝で、捧げられた野菜や果物の一部は近くの福祉食堂に届けられました。

二二日(土)は超教派の教会音楽祭、聖堂にてオンライン参加しました。三〇日、帯広のフードバレーマラソン、多くのランナーが礼拝中の教会の脇の通りを駆け抜けて行きました。

▽稚内聖公会(伝道所)

一〇月二八日(金)、永谷司祭の司式・説教により聖餐式をお捧げしました。礼拝後はハロウィンの和菓子でお茶をし、念のため水道の水落とし、台所とトイレの水がたまるところへ不凍液を入れました。道北四教会合同礼拝の際に確認された建物の傷みについて地元の建築業者に目視で確認してもらいました。今

後の対策や補修を本格的に検討していきます。クリスマス礼拝は十二月二日(水)午前一〇時から行います。礼拝後は祝会も予定していますので、よろしければぜひ稚内にお越しください。

▽函館聖ヨハネ教会

一〇月二日、上平更司祭による司式・説教。午後は定例教会委員会にご出席。終了後は札幌の会議に急がれる。

九日、笹森田鶴主教様初のご巡錫日、主日礼拝にて、ヨハネ水谷文穂君の洗礼・接手をいただく。愛知県一宮市からご両親はじめ多数列席。

同日午後、第二回聖堂コンサートを開催、札幌から二胡奏者・遠山夕希子さんを迎え、ピアノは当教会の佐々木茂兄。秋の午後、幸せなひと時を過ごす。藤井司祭に代わりチェロを弾かれた桜田通雄氏の友情出演に感謝。

一六日、信徒有志による教会墓地の枝払い・清掃実施。翌月の墓地礼拝に備える。自宅療養中の藤井司祭は礼拝にも出席され順調。主に感謝。

▽平取聖公会

教会と保育園庭に高くそびえ立ち、春には木に花をいっぱい咲かせていたサクラの木が寿命を迎え危険なため、この秋に伐採しました。隣のフジ棚とともに保育園の園児

を永年見守っていました。来春には園舎が少し離れた所に新築されますが、そこではどんな花が園児を見守ってくれるのでしょうか。

礼拝には「聖書日課」を用いています。聖ルカによる福音書も残り少なくなってきました。収穫感謝礼拝を一月に捧げましたが、私たちの収穫もイエス様に導かれて多かったことを感謝します。

保育園の基礎工事が進んでいます。お祈り下さい。

▽札幌キリスト教会

礼拝堂から見える北大構内のクルミの木にエゾリスが忙しく冬支度です。一〇月二日、西原廉太中部教区主教・立教大学総長が説教を奉仕ください感謝。七日、北海道外キ連のワンデーキャラバンが当教会で開催、笹森主教の指導による聖書研究会、渡邊さゆり牧師の講演会が行われました。一〇日、有珠聖公会のバザーに当教会から一〇名が協力に出かけました。一六日、収穫・勤労感謝礼拝をお捧げしました。二二日、セシリア高村悦子さん、ご逝去。召さ

れし霊の平安をお祈りします。

▽札幌聖ミカエル教会

秋も深まる中、幼稚園は恒例の生活発表会に向けて練習開始。今年も子どもたちの輝く姿が見られそうです。幼児祝福礼拝にて、全園児が礼拝堂で祝福にあずかりました。

教会はいよいよ礼拝堂のストーブを点火する時期に。二三日、聖餐式の中で収穫感謝の祈りを捧げる。この日、久しぶりにエンジェルウイングズ(中高生会)の集まりを持つ。参加者に司祭はカルト宗教の危険性について力説。また、この時期、若者たちが春に植えた稲の収穫をして、おいしくいただきました。クリスマスに向けてワーキングチームによる話し合いを行う。十一月一日、ロシア谷本靖子さんが天に召される。主の光明と平安がありますように。

▽新札幌聖ニコラス教会

教会の鶯の葉の色変わりも終わり、冬支度が始まりしました。二三日は収穫感謝礼拝が捧げられました。信徒の皆様

から集められた今年の収穫物に感謝し、世界の困難の中にある人たちへ思いを寄せる日となりました。三〇日にはニコラスに連なる全逝去者を記念する日となり、午後には円山墓地でミカエル、新冠の埋葬されるご家族との合同で墓地礼拝をお捧げする。教区の教会共同で守る場であることを改めて感じる日となりました。

▽有珠聖公会

一〇月一〇日、教会バザーを実施。当日は、あいにくの雨でしたが、近隣から多くの方が来場、買い物を楽しみました。バザーのために札幌より一名の方が応援にかけつけバザーを大いに盛り立ててください、感謝。二三日、収穫感謝礼拝を捧げました。チャンセルには地元産の多くの野菜・果物が捧げられました。今年度の礼拝堂二階のバチラー夫妻記念室の開放事業も無事終了。片平芳裕さんのお働き大なり、感謝。一二月一〇日開催予定のクリスマスコンサートに向け準備を進めています。

▽留萌キリスト教会

白鳥の群れが春に生れた若鳥を伴って南下する一〇月。千葉雅子さんは、靴下五〇足を編み終えて老健施設への寄贈が無事完了し、贈り物に喜ぶ高齢者の写真が届いたそうです。

三〇日は笹森主教様二回目の巡回日でした。収穫感謝と全逝去者記念を兼ねて主日の聖餐式をお捧げしました。名寄の藤井さん宅、幌糠の小林さん宅、増毛の井村さん、高田さん宅より秋の実りや花々が祭壇に捧げられました。礼拝後は玄関で焼き肉をして楽しい交わりのひと時でした。

▽紋別マリヤ教会

紅葉の見頃も過ぎ暖かかった秋も終わり、朝晩めっきり寒くなりました。もう少して冬到来です。一〇月二日、越山司祭による聖餐式が行われました。一〇月三〇日は収穫感謝礼拝が行われ、網走より飯野司祭が来てくださり説教を行いました。

おでんなどとてもおいしくいただきました。

寒さに向かいます。身体に気をつけて過ごしましょう。

▽深川聖三一教会

一〇月、保育園の収穫感謝祭は五日に、光の子の礼拝は一、二、一九、二六日。園児とともに世界平和を祈っておりま

す。一三日、保育園職員会議、岸本保育士より園内研修で「保育園でできるケガの応急手当」の指導あり。一三日、

主教巡回日、収穫感謝祭を祝う。主教様よりランベス会議の模様と感想及び主教の私たちを伺う。当日の記念写真を鈴木栄文氏に撮っていただく。三日後には写真完成、届けられ一同へ配布。ありがとうございます。二六日、道北分区分区牧師会、笹森主教様はオンラインにて陪席。

▽網走聖ペテロ教会

イチヨウの葉の黄色い絨毯が眩しい網走です。

一〇月八日の会計担当者会議に和田弓さんが出席。長旅の奉仕お疲れ様でした。一〇日、佐藤ひふみさん、バルナバ裕さん、ユニケ栄子さんの

逝去者記念の式がご自宅で執り行われました。秋の教役者会が一二日～一四日、十勝で行われ司祭も参加、道東分区分長として先生方の寛容の内に奉仕させていただきました。一四日、屋根の工事無事終了感謝。施設に入られた森谷ツギさんは娘さんと共に礼拝に出席、明るさ放つ力に感謝です。

▽北見聖ヤコブ教会

教会前のプラタナスの道は雪虫の舞踏場。いよいよ冬だねと告げているよう。教会委員会では会計奉仕者への御礼、緊急時の対応、環境整備の予算を組むこと等が確認されています。

一六日の礼拝ではシトリー会のホスチアを使用、皆様の印象をお聴きいたしました。

司祭は中央道路開削犠牲者追悼式や超教派牧会者の集いや管区教誨師の集い等に参加しています。

甘い葡萄の豊かなみのりのため、肥料としての米糠を再び散布いたしました。

▽聖マーガレット教会

教会の角に育っていたトド

松を植木屋さんに切ってもらいました。一〇月二〇日(木)最後のニセコ・ワーク出発。

田鶴主教様、横山司祭様夫妻はじめ一三名、バスでの小さな旅は久しぶり。二八年間の楽しかった草刈り作業、特に成田保之さんには毎回段取りを付けていただきました。ニセコの土地は神様におかえしました。これからはニセコでふくらませた夢を、土地をくださった方の思いも合わせ、イエス様の御守りの内に生きる共同体とますますなっていくことにつながられるよう夢に見て、主よ。

▽室蘭聖マタイ教会

一〇月は台風の影響も受けず穏やかな日々を過ごしました。教会の外壁の修復も無事終

わり一安心です。第二主日は松井司祭の司式で収穫感謝礼拝が行われ、その後マタイ福音書の輪読会が行われました。礼拝で読まれる福音書は部分的なものです。輪読会では全部読まれるので勉強になります。

二三日は大町司祭による聖

餐式でした。三〇日には松井司祭が来会し、聖餐式後聖書の輪読会、今後の予定について話し合いが行われました。

一〇月の教区会には山本兄が出席してくださいませ。

▽新冠聖フランシス教会

一〇月も末日になると教会の窓ガラスの向こうはすっかり紅葉に変わり、枝から手を離すかのように一枚二枚と舞い落ちる光景に深まりゆく秋を感じるこの頃です。

一〇月九日、聖霊降臨後第一八主日。一〇月二三日、聖

霊降臨後第二〇主日、礼拝の学びに主のみ言葉と恵みに感謝です。一〇月九日、肥田美代子姉の娘さんお二人が見えて白いレース編みの敷物をいただきました。大切に使用させていただきます。また、熊谷

和彦兄は札幌より礼拝サーバーとしてご奉仕くださり感謝です。

▽苫小牧聖ルカ教会

苫小牧キリスト教船員奉仕会が解散し、建物が解体されました。これまでの活動記録の一部は教区で保存することになり、準備を進めています。

解散感謝礼拝が一月に執り行われます。

一六日に収穫感謝礼拝が行われ、今年の野菜等の捧げ物は白老で活動している子ども食堂「白老ふれあい食堂ウタール」に捧げられました。昨年

は苫小牧の子ども食堂に捧げられました。二四日、「祈祷書の学び」を「エクレスシア」と改称し開催しました。コロナ禍で停止されていた諸活動が復活するように願っています。

▽小樽聖公会

一〇月九日(日)、聖霊降臨後第一八主日。札幌キリスト教会、聖マーガレット教会からの「小巡礼」の方々を迎えて聖餐式をおささげする。コロナの第七波も収まり、久しぶりに聖歌をうたう。秋晴れのおだやかな日曜は、よる

ごびにみたされる。

一〇月二三日(日)、聖霊

降臨後第二〇日主日。収穫感謝を兼ねて礼拝をおささげする。ささげものに大きなカボチャ、ブドウ、リンゴ、柿の実、色とりどりの野菜や果物が並ぶ。礼拝後、ささげもの

を分配し持ち帰る。恒例の行事から秋の深まりを感じる。

▽今金インマヌエル教会

今月の礼拝は、九日に笹森主教様ご夫妻が来てくださり、殊の外おつれあいが薪ストーブに感激される等、とても楽しい一時を過ごせました。また二三日には、上平司祭と雨に降られながらの墓地礼拝で、きっと私たち同様、先祖の皆様も感謝されている事でしょう!!そして、収穫作業も佳境に入り、豪雨災害にも負けない強い心で乗り越えられるよう、療養中の藤井司祭のお元氣な姿が一日でも早くみられるよう、日々祈りながら奮闘しております。主に感謝。

